

用瀬町埋蔵文化財発掘調査報告書 3

TOTTORIKEN YA ZU GUNMOTIGASETYO

鳥 取 県 八 頭 郡 用 瀬 町

MOTIGASETYO NAI I SEKI

# 用瀬町内遺跡発掘調査報告書

町内における開発工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

1 9 9 6

用瀬町教育委員会

# 序 文

この報告書は、用瀬町大字鷹狩における用瀬町内遺跡発掘調査の記録であります。

この調査は、町社会体育施設である運動広場の建設等の開発工事に伴い、周辺に多くの遺跡が確認されていることから、平成7年度に試掘調査を実施したものであります。

調査地周辺には、散布地2ヵ所と古墳3基が有り、町内でも古くから人が生活していた地域として知られています。この度の調査では、鷹狩字土居ノ根から土器数点が発見され、本町23番目の遺跡と確認されました。今回の調査結果は、調査地周辺遺跡の関連の解明と共に、今後の文化財保護に役立つものと思われます。

用瀬町では、このような発掘調査について経験が少なく、いろいろな困難を伴いましたが、鳥取県埋蔵文化財センターのご指導と、作業員の方々のご尽力、そして土地所有者・開発関係者のご理解とご協力により、調査を終了し報告書を発刊する運びとなりました。

関係各位に深く感謝申し上げますと共に、これを契機に本町の文化財保護に一層の努力を重ねていきたいと思っておりますので、皆様のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

平成8年3月

用瀬町教育委員会

教育長 岸 本 一 郎



## ◎ 例 言

1. この報告書は、平成7年度に用瀬町教育委員会が用瀬町鷹狩地内（鷹狩塚ノ元、鷹狩上ケ市、鷹狩市場尻、鷹狩土居ノ根）で実施した町内遺跡の発掘調査報告書である。
2. この調査は、町内遺跡発掘調査事業として、国及び県の補助を受け実施した。
3. この調査は、平成7年4月10日から6月2日まで現地調査を実施し、平成8年3月19日をもって全作業を終了した。
4. 本報告書に掲載した地形図は、用瀬町発行の5万分の1「用瀬町全図」、1万5千分の1「用瀬町全図」、2千5百分の1「用瀬町平面図1」を複写・拡大縮小したものである。
5. 本報告書は、遺構図は百分の1、遺物図は2分の1とした。
6. 本報告書における方位は磁北を示す。
7. 本報告書の執筆・編集は、平木が行った。
8. 出土遺物・図面等は、用瀬町教育委員会が保管する。

## 調査体制

調査主体	用瀬町教育委員会
調査団長	岸本一郎（用瀬町教育委員会教育長）
調査担当者	平木正和（用瀬町教育委員会社会教育主事）
調査作業員	沖田正亮 小谷邦治 下田忠男 下田政雄 谷口幸一 本部八重子 森川真一 山根久野 米田松蔵
調査指導	鳥取県埋蔵文化財センター

# 本文目次

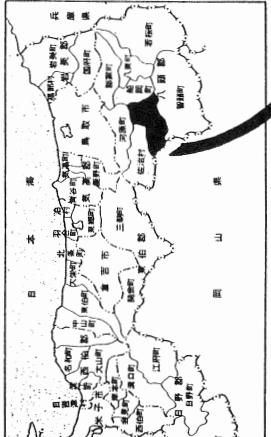
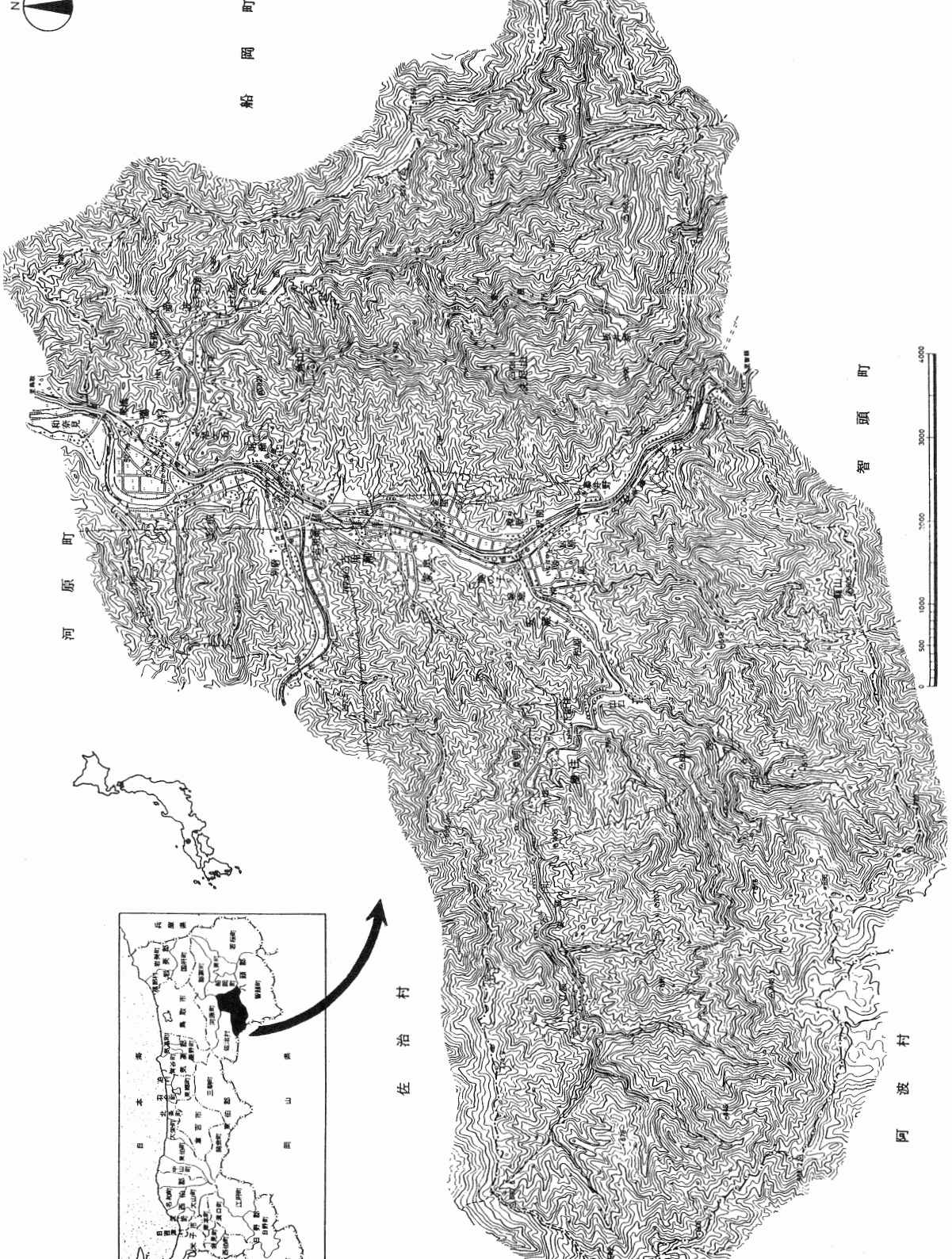
第1章 発掘調査に至る経過 .....	1
第2章 位置と環境 .....	1
第3章 発掘調査の概要 .....	3
第1節 鷹狩塚ノ元遺跡 .....	3
1 位置と環境 .....	3
2 調査に至る経過 .....	3
3 調査の概要 .....	3
第2節 鷹狩市場尻遺跡 .....	4
1 位置と環境 .....	4
2 調査に至る経過 .....	4
3 調査の概要 .....	4
第3節 鷹狩土居ノ根遺跡 .....	5
1 位置と環境 .....	5
2 調査に至る経過 .....	5
3 調査の概要 .....	5
1) 第1トレンチ .....	6
2) 第2トレンチ .....	6
3) 第3トレンチ .....	8
4) 第4トレンチ .....	8
5) 第5トレンチ .....	8
6) 第6トレンチ .....	8
第4節 まとめ .....	9

## 挿図目次

第 1 図	調査地周辺の文化財分布図	2
第 2 図	鷹狩塚ノ元遺跡トレンチ配置図	3
第 3 図	鷹狩市場尻遺跡トレンチ配置図	4
第 4 図	鷹狩土居ノ根遺跡トレンチ配置図	5
第 5 図	第 1 トレンチ遺構図	6
第 6 図	第 2 トレンチ遺構図	7
第 7 図	出土遺物実測図	7
第 8 図	第 5 トレンチ遺構図	8

## 図版目次

図版 1	鷹狩土居ノ根遺跡（調査前）	13
図版 2	鷹狩土居ノ根遺跡第 1 トレンチ中央部	13
図版 3	鷹狩土居ノ根遺跡第 2 トレンチ	13
図版 4	鷹狩土居ノ根遺跡第 2 トレンチ拡幅部	13
図版 5	出土遺物 1（外面）	14
図版 6	出土遺物 1（内面）	14
図版 7	出土遺物 2（外面）	14
図版 8	出土遺物 2（内面）	14



佐治村

阿波村

河原町

船岡町

智頭町

## 第1章 発掘調査に至る経過

町運動広場他の用瀬町鷹狩地内での3件の開発計画に伴う協議が、平成6年11月に持たれた。鷹狩周辺は、町内の遺跡の多くが存在しており、埋蔵文化財を包蔵している可能性が高い地域であるため鳥取県埋蔵文化財センターの協力を得て踏査を行ったところ、耕作土中から土師器片を採取した。

以上のことをふまえて、鳥取県埋蔵文化財センター・開発関係者とそれぞれ協議し、試掘調査が必要であるとの結論に至った。そして埋蔵文化財の保護を図るため、鳥取県教育委員会の協力を得て15,581㎡を対称に用瀬町教育委員会が試掘調査を実施することとなった。

## 第2章 位置と環境

鳥取県東部にある用瀬町は、中央を第1級河川の千代川が北流し、その河口から約20kmの中流地点に位置する。町の北は河原町・南は智頭町・東は船岡町・西は佐治村に接し、南西の一部は岡山県と県境を接する。町の面積の約80%を山林が占めており、平坦地の少ない地形である。

歴史的に見ると、縄文・弥生時代の遺構を持つ遺構は見つかっていないが遺物は鷹狩遺跡、余井遺跡、余井唐堀遺跡で見ついている。

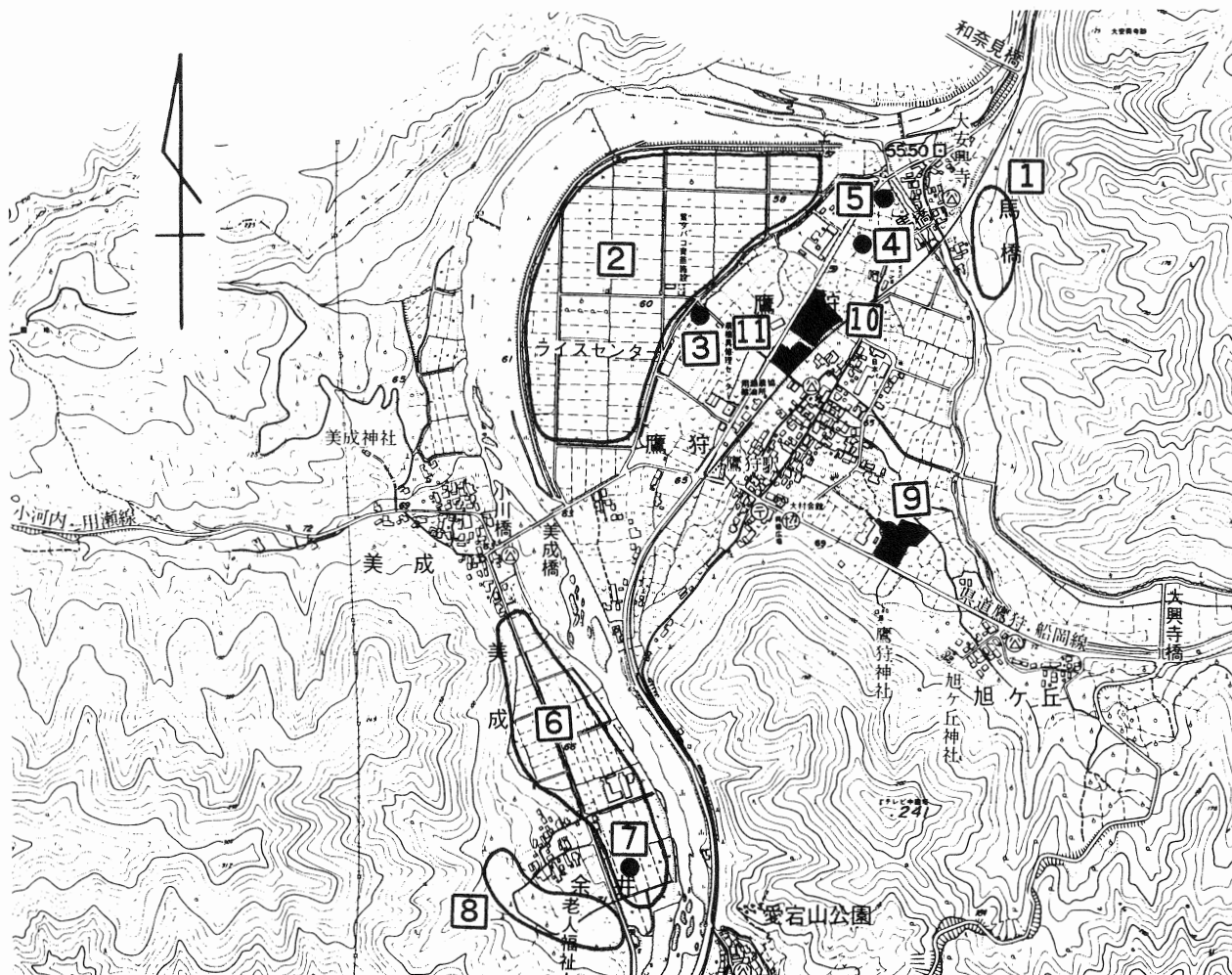
古墳としては、鷹狩1～3号墳、余井古墳、古用瀬1・2号墳の6基が見ついている。このうち余井古墳は昭和53年度に発掘調査を行っており、横穴式石室の中から土師器、須恵器、鉄器、耳環等が見ついている。余井古墳は、発掘調査後移転復元されている。

戦国時代においては、松茸尾城、景石城、茶臼山城の3カ所の城跡が残っている。また、江戸時代には、上方往来が町内を通過していたため、鳥取・智頭間の休憩所として宿場町的役割を持っていたとされている。幕末には番所も置かれたとされている。

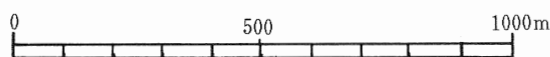
今回の調査地のある鷹狩地区は、町北部の千代川と赤波川の合流地点で町内で最も広い平坦地に位置する。鷹狩の地名は、「延喜式」の中に高狩（鷹狩）別府として記載されている。また鷹狩地区には、河岸段丘下に鷹狩遺跡、河岸段丘上にも鷹狩1～3号墳がある。また北東には赤波川をはさんで馬橋遺跡が有り、南西には千代川をはさんで余井遺跡、余井唐堀遺跡、余井古墳がある。（第1図）

このように調査地周辺は、町内で最も古くから人が住んでいた地域の一つである。調査地は未踏査地区であるが、周囲の遺跡分布から考えると遺跡を包蔵している確率が高いと言える。





S = 1 : 15, 000



第1図 調査地周辺の文化財分布図

1	馬橋遺跡（須恵器、土師質土器）
2	鷹狩遺跡（縄文、弥生、土師器、石斧）
3	鷹狩1号墳（須恵器、鉄刀、玉類）
4	鷹狩2号墳（不詳）
5	鷹狩3号墳（須恵器）
6	美成遺跡（須恵器、土師器）
7	余井古墳（須恵器、土師器、鉄器、耳環）昭和53年度調査、その後移転。
8	余井唐堀遺跡（縄文、弥生、須恵器、土師器、竪穴式住居跡）平成4年度調査。
9	鷹狩塚ノ元遺跡（平成7年度調査地）
10	鷹狩市場尻遺跡（平成7年度調査地）
11	鷹狩土居ノ根遺跡（平成7年度調査地）

### 第3章 発掘調査の概要

#### 第1節 鷹狩塚ノ元遺跡

##### 1. 位置と環境

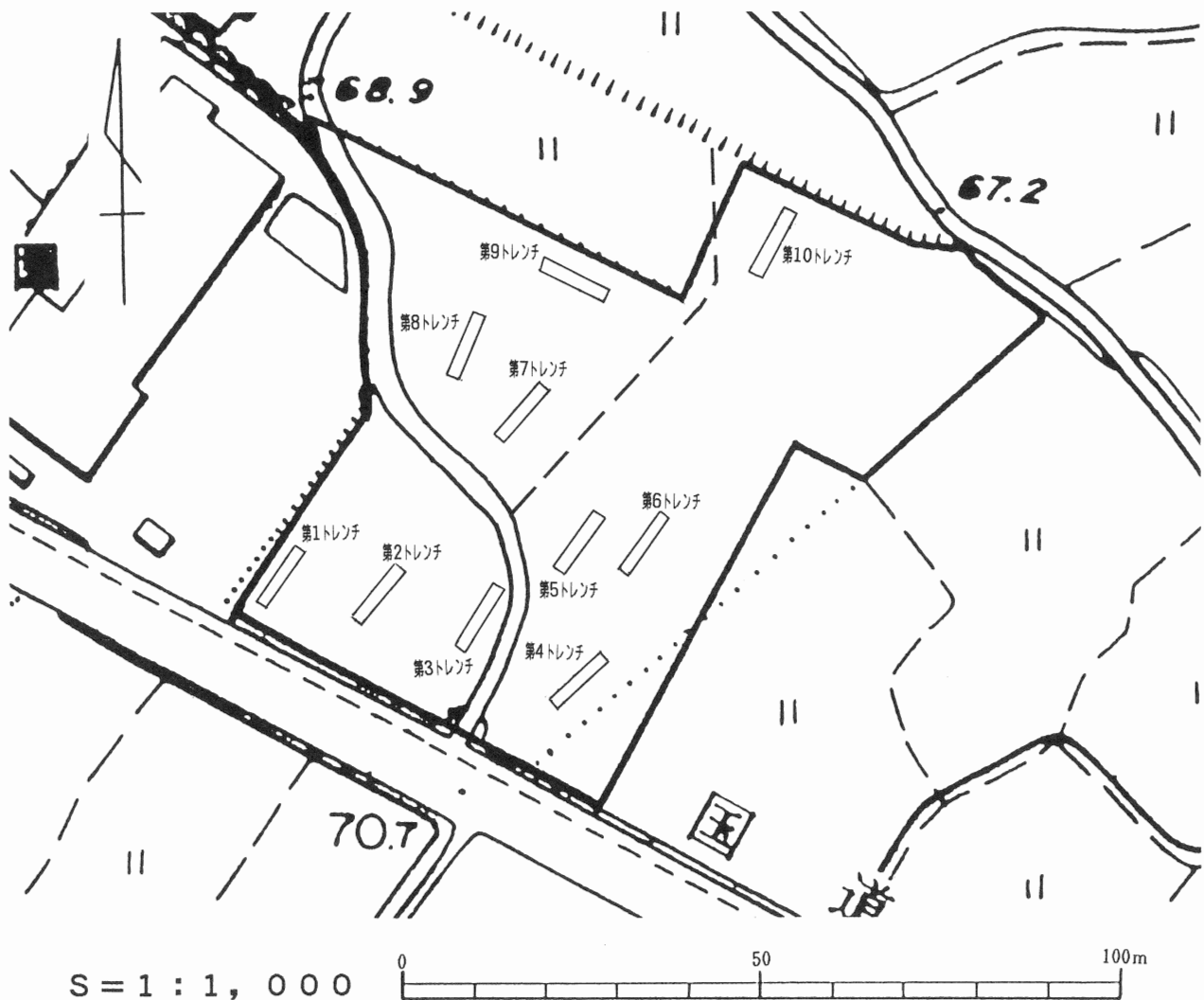
鷹狩塚ノ元遺跡は、用瀬町鷹狩字塚ノ元196、197-1、上ヶ市33-1、34-3に所在し、千代川の支流である赤波川の河岸段丘上に位置する。JR鷹狩駅から東へ約260 m離れた国道482号の隣接地で、現在は水田として使用されており、平坦な地形である。平成6年度の踏査によって塚ノ元197-1の地表から土師器片1点が検出されている。

##### 2. 調査に至る経過

平成6年11月に町社会体育施設である運動広場の建設計画について協議があり、埋蔵文化財の有無及び範囲を確認するため、平成7年4月10日から4月25日にかけて計200 m<sup>2</sup>の試掘調査を行った。

##### 3. 調査の概要

調査地は総面積4,900 m<sup>2</sup>で、その中に長さ10m、幅2mのトレンチ10本を設定した。(第2図)地山面まで掘り下げたが、遺物、遺構とも確認できなかった。



第2図 鷹狩塚ノ元遺跡トレンチ配置図

## 第2節 鷹狩市場尻遺跡

### 1. 位置と環境

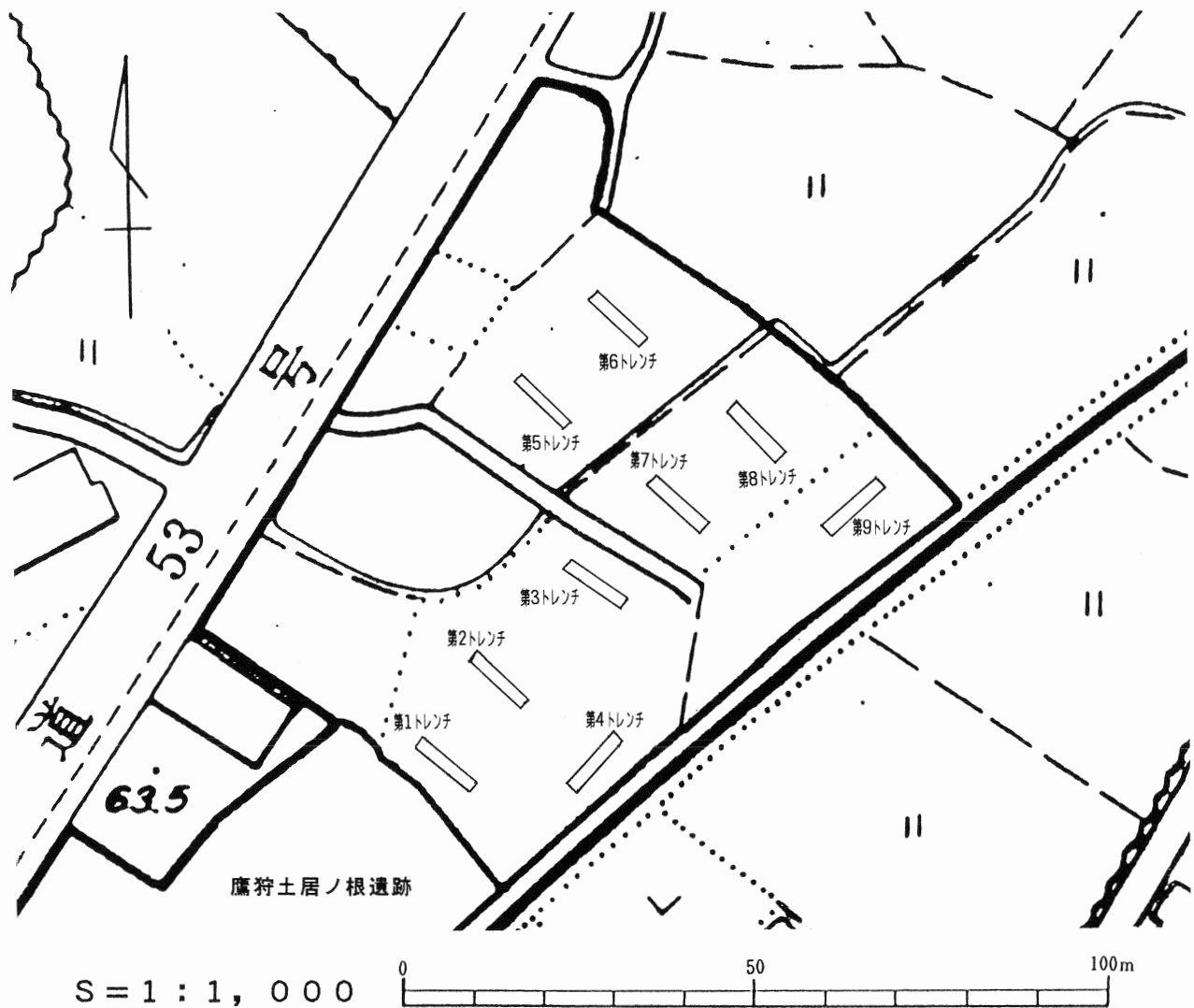
鷹狩市場尻遺跡は、用瀬町鷹狩字市場尻659-1、2、3、5、7、672-1、字土居ノ根673-3、676-1、677-2、678-2に所在し、千代川の河岸段丘上に位置する。JR鷹狩駅から北東へ約300m離れた国道53号の隣接地で、現在は水田として使用されており（ただし、一部は減反のため畑として使用されている）、平坦な地形である。また、659-1、2は過去に造成工事がなされている。

### 2. 調査に至る経過

平成6年11月に町内業者より用瀬町商業集積店舗及び駐車場の建設計画について協議があり、埋蔵文化財の有無及び範囲を確認するため、平成7年4月26日から5月19日にかけて計180㎡の試掘調査を行った。

### 3. 調査の概要

調査地は総面積7,877㎡で、その中に長さ10m、幅2mのトレンチ9本を設定した。（第3図）地山面までは掘り下げなかったが、開発深土中に遺物、遺構とも確認できなかった。



第3図 鷹狩市場尻遺跡トレンチ配置図

### 第3節 鷹狩土居ノ根遺跡

#### 1. 位置と環境

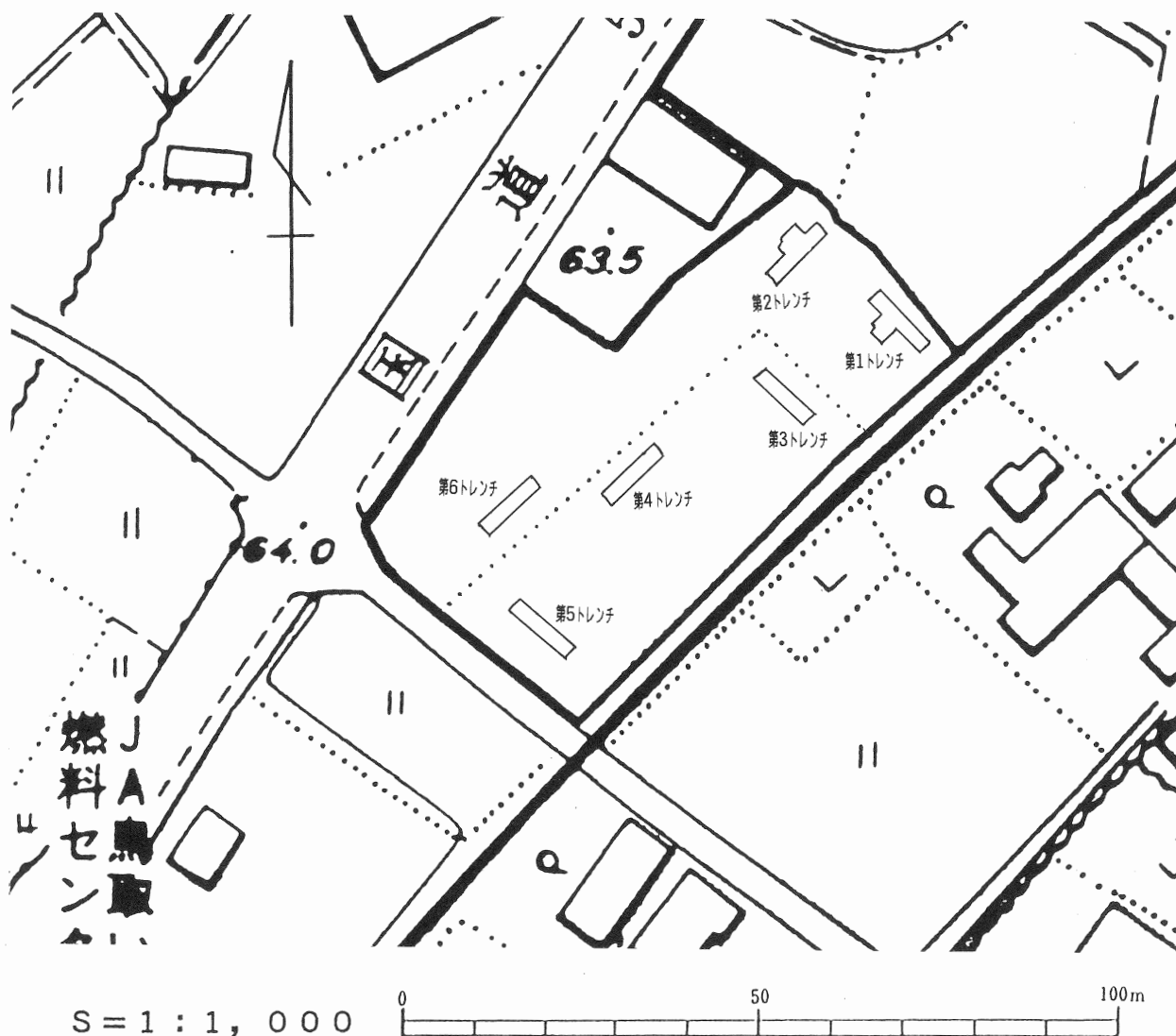
鷹狩土居ノ根遺跡は、用瀬町鷹狩字土居ノ根680-1, 3, 4 に所在し、千代川の河岸段丘上に位置する。JR鷹狩駅から北東へ約250 m離れた国道53号の隣接地で、現在は水田として使用されており、平坦な地形である。鷹狩市場尻遺跡とは隣接している。

#### 2. 調査に至る経過

平成6年11月に株式会社ジュンテンドーよりジュンテンドー用瀬店建設計画について協議があり、埋蔵文化財の有無及び範囲を確認するため、平成7年5月23日から6月2日にかけて計120 m<sup>2</sup>の試掘調査を行った。

#### 3. 調査の概要

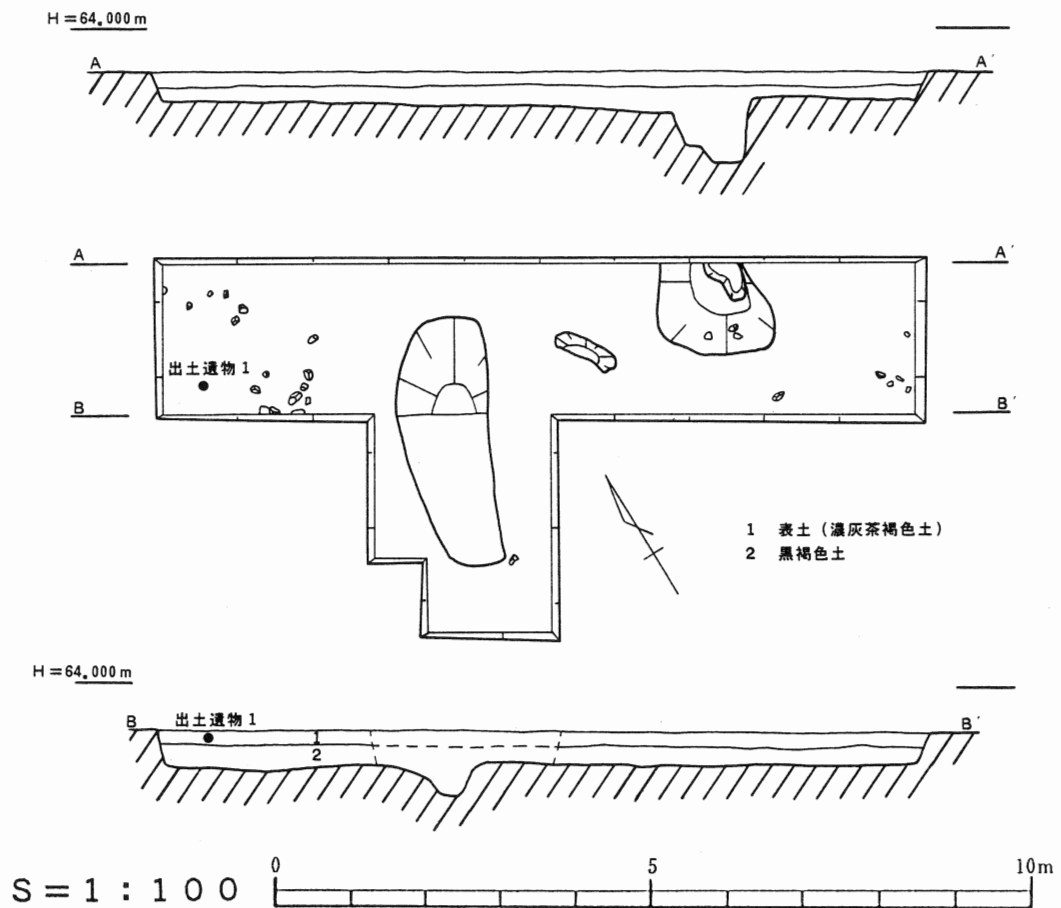
調査地は総面積2,804 m<sup>2</sup>で、その中に長さ10m、幅2mのトレンチ6本を設定した。(第4図)



第4図 鷹狩土居ノ根遺跡トレンチ配置図

### 1) 第1トレンチ

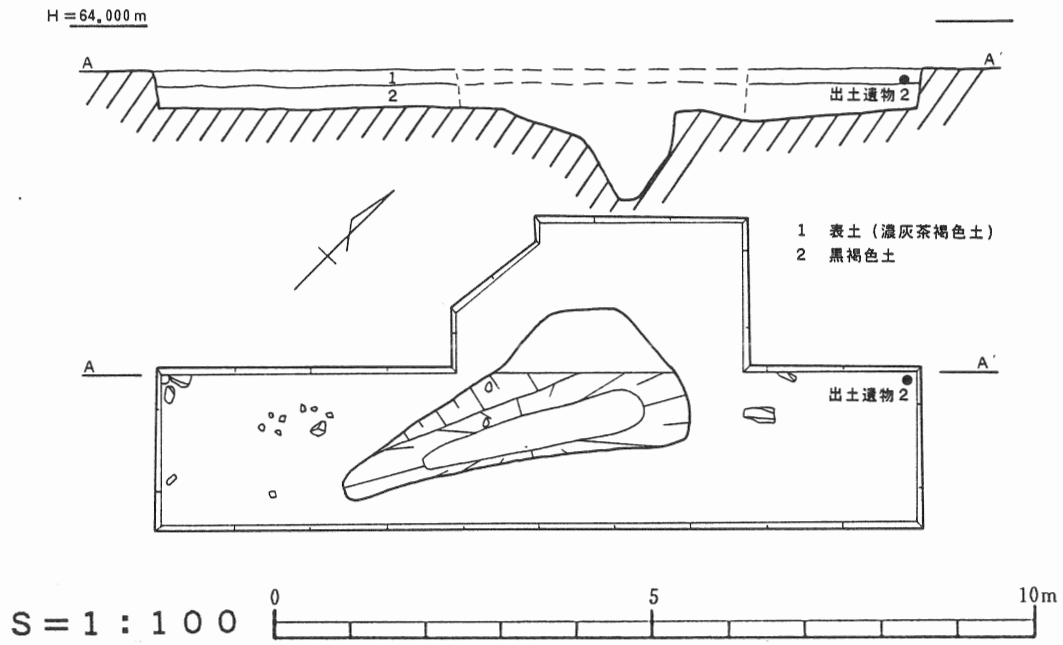
調査地北東端に北西-南東方向のトレンチを設定した。トレンチ南東部及び中央部に不定形の竪穴状の落ち込みを各1基検出した。また、トレンチ中央部に落ち込みが検出されたため南西方向に拡幅したところ、長さ約3.3 m、幅約0.8 ~ 1.2 m、深さ約0.4 mのU字形の溝状の落ち込みであることがわかった。(第5図) これらの落ち込み面及び内部の埋土からは遺物は検出されず、落ち込みの時期及び性格は不明である。落ち込み内部の埋土は攪乱されており、境界の決定は困難であった。また、トレンチ北西部表土中から土器片を検出した。(第7図 出土遺物1)



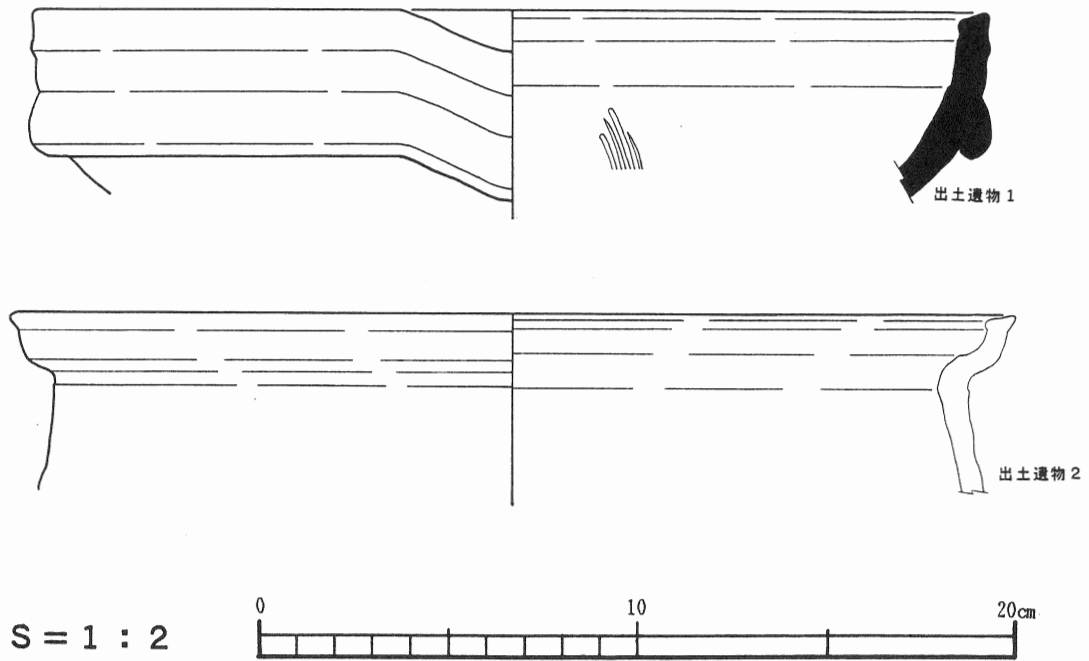
第5図 第1トレンチ遺構図

### 2) 第2トレンチ

第1トレンチの北西約10 mの位置に北東-南西方向のトレンチを設定した。トレンチ北東部の埋土中から土器片を検出した。第1トレンチで落ち込みが検出された面(以下、検出面とする)まで掘り下げたところ、トレンチ中央部にU字形の溝状の落ち込みを1基検出した。北西方向に拡幅してみたが、落ち込みはとぎれていた。落ち込みは、長さ約4.7 m、幅約0.7 ~ 1.9 m、深さ約1.4 mである。(第6図) 落ち込み面及び内部の埋土からは遺物は検出されず、落ち込みの時期及び性格は不明である。落ち込み内部の埋土は攪乱されており、特に北西の壁面は下層の砂礫が多く巻き上げられている。また、トレンチ北東部の埋土中から土器片を検出した。(第7図 出土遺物2)



第6図 第2トレンチ遺構図



第7図 出土遺物実測図

### 3) 第3トレンチ

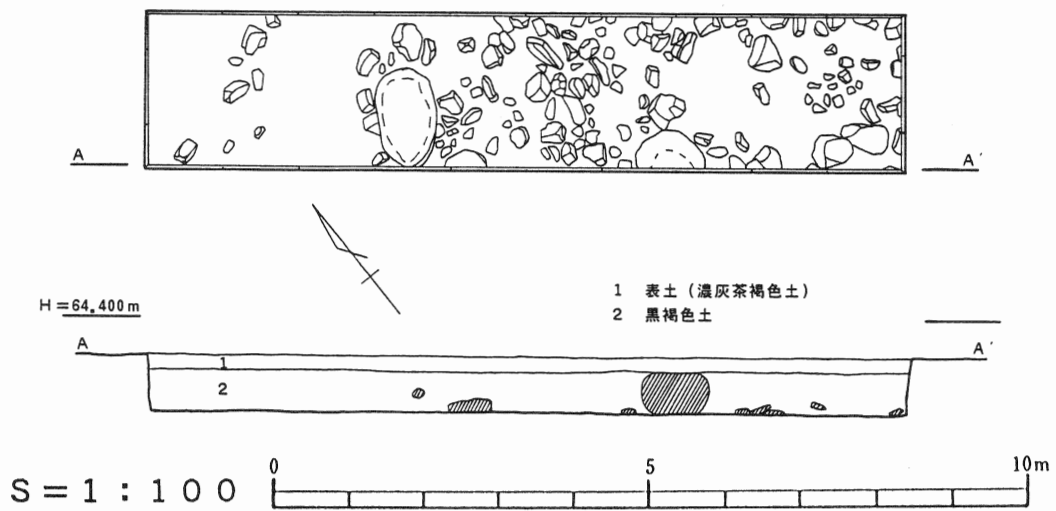
第1トレンチの南西約16mの位置に北西-南東方向にトレンチを設定した。検出面まで掘り下げたが、遺物、遺構とも確認できなかった。

### 4) 第4トレンチ

調査地中央部に北東-南西方向のトレンチを設定した。検出面まで掘り下げたが、遺物、遺構とも確認できなかった。幅約0.5 mのサブトレンチを設定し、さらに約0.5 m掘り下げたが地層の変化は確認されなかった。

### 5) 第5トレンチ

調査地南端に北西-南東方向のトレンチを設定した。検出面まで掘り下げたところ、トレンチ中央部から南東部にかけて大小多数の石を検出した。意図的に並べられたところは確認できなかった。(第8図)



第8図 第5トレンチ遺構図

### 6) 第6トレンチ

北東-南西方向のトレンチを設定した。検出面まで掘り下げたところ、トレンチ北東部に最大で直径約0.3 m程度の石を10数個検出した。意図的に並べられたところは確認できなかった。第5トレンチの石群との関連は不明である。

番号	器型	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	取上番号	形態上の特徴	手法上の特徴
1	摺鉢	口径 25.0 (推定)	緻密	良好	内外面 黒紫色	土居ノ根 T-1	口縁部を上下に肥厚させ、特に下部が厚い。口縁端面はやや外傾している。	口縁部内外面横ナデ。体部内面一部に櫛目有り。
2	甕	口径 26.2 (推定)	小礫点在 緻密	良好	内外面 燈褐色	土居ノ根 T-2	やや外傾する口縁部。口縁端部は平面であり上外方へ尖り気味。	口縁部内外面横ナデ。体部外面雑な横ナデ。

## 第4章 まとめ

鷹狩土居ノ根遺跡調査地では、第1トレンチ、第2トレンチより落ち込み4基と土器片2点を検出した。

落ち込みのうち、第1トレンチ中央部のものと第2トレンチのものとは拡幅したが、いずれも途切れており古墳の周溝等の遺構ではないと思われる。内部の埋土が攪乱されていることから、風倒木跡とも考えられる。あと2基の落ち込みも不定形で遺物も検出できないところから遺構ではないと思われる。

出土土器1は、備前の摺鉢の口縁部である。口縁部及び口縁端部から、馬壁編年のV期の時期の物と考えられ、16世紀以降のものと思われる。出土土器2は、土師器の甕の口縁端部から口頸部であると思われる。土器片は、いずれも表土及び埋土上層中より検出されているため、落ち込みの時期決定の根拠とはならない。また、埋土もしまった状況ではないため、他からの流入も考えられる。

鷹狩塚ノ元遺跡調査地、鷹狩市場尻遺跡調査地からは遺物、遺構とも検出されなかった。



報 告 書 抄 録

ふりがな	もちがせちょうないいせきはくつちようさほうこくしょ						
書名	用瀬町内遺跡発掘調査報告書						
副書名	鷹狩地区開発工事に伴う埋蔵文化財発掘調査						
巻次							
シリーズ名	用瀬町埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号	第3集						
編集者名	平木正和						
編集期間	用瀬町教育委員会						
所在地	〒689-12 鳥取県八頭郡用瀬町別府34-7 TEL 0858-87-2288						
発行年月日	西暦1996年3月20日						
ふりがな	ふりがな	コード	遺跡	北緯	東経	調査	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	番号	° ' "	° ' "	期間	
たかがりつかの もと 鷹狩塚ノ元	やずぐんもちがせちょうたかがり 鳥取県八頭郡用瀬町鷹狩	31326		35度 20分 58秒	134度 12分 42秒	199504 10～ 199504 25	町営運動広場建設 に伴う試掘調査
いせき 遺跡	あざつかの もと あざかみが いち 字塚ノ元、字上ケ市						
たかがりいちば じり 鷹狩市場尻	やずぐんもちがせちょうたかがり 鳥取県八頭郡用瀬町鷹狩	31326		35度 21分 9秒	134度 12分 41秒	199504 26～ 199505 19	商業集積店舗及び 駐車場建設に伴う試 掘調査
いせき 遺跡	あざいちば じり あざどの ね 字市場尻、字土居ノ根						
たかがりどい の 鷹狩土居ノ	やずぐんもちがせちょうたかがり 鳥取県八頭郡用瀬町鷹狩	31326	23	35度 21分 7秒	134度 12分 40秒	199505 23～ 199506 02	株式会社ジュンテ ンダー用瀬店建設に 伴う試掘調査
ねいせき 根遺跡	あざどい の ね 字土居ノ根						
所集遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
鷹狩土居ノ根遺跡	散布地	中世	なし	土師器 陶器			

# 圖 版





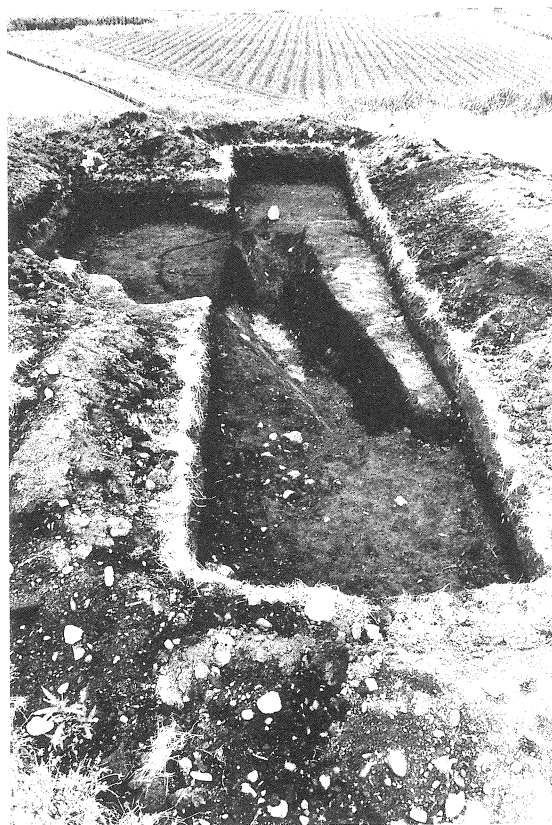
図版2 鷹狩土居ノ根遺跡第1トレンチ中央部



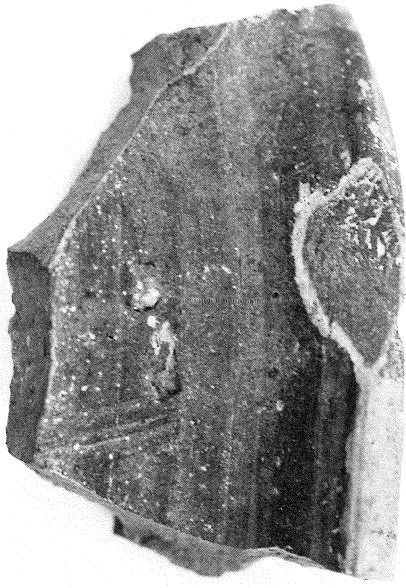
図版4 鷹狩土居ノ根遺跡第2トレンチ拡幅部



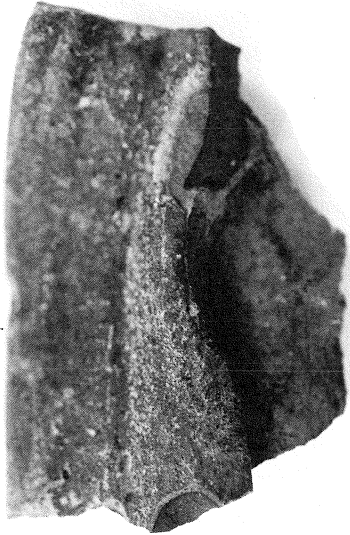
図版1 鷹狩土居ノ根遺跡（調査前）



図版3 鷹狩土居ノ根遺跡第2トレンチ



图版 6 出土遺物 1 (内面)



图版 5 出土遺物 1 (外面)



图版 8 出土遺物 2 (内面)



图版 7 出土遺物 2 (外面)

用瀬町埋蔵文化財発掘調査報告書 3

## 用瀬町内遺跡発掘調査報告書

町内における開発工事に  
伴う埋蔵文化財発掘調査

発 行 1996年3月

発行者 用瀬町教育委員会  
〒689-12 鳥取県八頭郡用瀬町別府34-7  
TEL (0858)87-2288

印 刷 中央印刷株式会社  
〒689-11 鳥取市南栄町34-2  
TEL (0857)53-2221